ベンゾシクロヘプタオキサジン類およびクロルクロマジン類の古典的定量構造活性相関および Protein-Ligand Docking 相互作用

Quantitative Structure-Activity Relationship and Protein-Ligand Docking Interaction on Benzocycloheptaoxazines and Chlorpromazines

栗原 照夫^{*1}・榊原 寿子^{*1}・野口 祥太^{*1}・若林 英嗣^{*2} KURIHARA, Teruo^{*1}; SAKAKIBARA, Toshiko^{*1}; NOGUCHI, Shota^{*1}; WAKABAYASHI, Hidetsugu^{*2}

26 種のベンゾシクロヘプタオキサジン類および 20 種のクロルクロマジン類の正常細胞および ガン細胞に対する 50%細胞障害活性濃度(CC_{50} : μ M)が報告されている。最初にこれら化合物の CC_{50} と 電 子 状 態 と の 古 典 的 構 造 活 性 相 関 (Classical Quantitative Structure-Activity Relationship:Classical QSAR)を検討し,良好な相関式を求めた。その後,ベンゾシクロヘプタ オキサジン類はシクロオキシナゼー2 (COX-2) と,クロルクロマジン類は d(CGTAGATCTACG)₂ 分子とのリガンド-ドッキング係数を計算ソフト Genetic Optimisation for Ligand Docking (GOLD)を用いて算出し,薬理作用発現解明の手掛かりとした。

1. 序論

以前,野副と石川・若林グループ(城西大学)はベンゾシクロヘプタオキサジンを合成し,こ の化合物は特異な複素環交換反応を行うことを見出し多種の化合物を合成した。¹⁻¹⁸⁾また,シク ロヘプタ[b]フラン-2-オン類とビニールエーテル類との新規な反応により様々なアズレン誘導体 を報告した。さらに,アズレン類の過ブロム化反応により一段階でアズレンキノン類を与える新

*1 城西大学理学部化学科物理有機化学研究室:*2 城西大学理学部化学科天然物有機化学研究室

い反応を見出し様々な誘導体を報告した。¹⁹⁻³¹⁾しかし、これらの化合物の系統的な薬理活性試験 は行われていなかったため、坂上(明海大学)一本橋(明治薬科大学)一若林(城西大学)のグ ループはアズレン類³²⁾、トロポロン類³³⁾、トリハロアセチルアズレン類³⁴⁾およびアズレンキノン 類³⁵⁾のヒト正常細胞およびヒトガン細胞の CC₅₀を測定し報告している。また、これら CC₅₀ と classical QSAR は栗原・若林(城西大学)一坂上(明海大学)一本橋(明治薬科大学)一Molnar(ハ ンガリー)のグループが研究し、比較的良好な相関式を報告した。³⁶⁻³⁸⁾

一方、フェノチアジン、ベンゾ[*a*]フェノチアジン、ベンゾ[*c*]アクリジン類は抗腫瘍性または抗 ガン活性等の生化学的活性が報告されている。また、これらの化合物の電子状態と薬理作用との Classical OSAR についても報告した。³⁹⁻⁴⁰⁾

この研究ノートでは 26 種のベンゾシクロヘプタオキサジン類および 20 種のフェノチアジン類 の電子状態と CC₅₀ との Classical QSAR を議論し, さらに COX-2 との Protein-Ligand Docking Fitness を Genetic Optimisation for Ligand Docking (GOLD)⁴¹⁾ ソフトを用いて検討し, 薬理作 用発現の手掛かりを見つけ出すことを目的とした。また, クロルプロマジンを含むフェノチアジ ン類の薬理作用についても GOLD ソフトを用いて d(CGTAGATCTACG)₂分子との相互作用を検討 した。その結果, 生体関連化合物との相互作用についてある程度の知見が得られた。

2. 計算方法

26 種のベンゾシクロヘプタオキサジン類 [1-26] を Figure 1 に示す。また、20 種のフェノチ アジン類[27-46]を Figure 2 に示す。これら 46 種の化合物をハミルトニアン AM1 法または PM3 法 (win MOPAC version 3.9, Fujitsu LTD) により気相中と水溶液中での構造最適化を行った。ま た、9 種のベンゾ[*a*]フェノチアジン類および 12 種のベンゾ[*c*]アクリジン類についても検討した が、今回は省略する。水溶液中の計算は Conductor-Like Screening Model Orbital (COSMO)で行い、 パラメーターは標準値 (NSPA=60, dielectric constant = 78.4 at 25°C) を用いた。また、静電ポテン シャル(ESP) 計算も行い、4 種の双極子モーメント (μ) を算出した。即ち、気相中および水溶液 中の双極子モーメント (μ_g , μ_w) と ESP 計算による双極子モーメント (μ_{ESP-G} , μ_{ESP-W}) である。 COX-2 (PDB ID:ICVU) および d(CGTAGATCTACG)₂ (PDB ID:119D) は Protein Data Bank より構造 をダウンロードし、119D は PM3 法で MOZYME を用いて構造最適化を行った。COX-2 はダウン ロードした構造をそのまま用いた。これらの作業には Chem 3D Pro Ver.5.0, CAChe Pro Ver.6.1 を併 用した。計算は DEL XPS DXG061 パソコンを用いた。



1: R₆, R₈, R₁₀=H **2:** R₆, R₈=Br; R₁₀=H **3:** R₆, R₈, R₁₀=Br



6: R_6 , R_8 , R_{10} =H 7: R_6 =Br; R_8 , R_{10} =H 8: R_6 , R_8 =Br; R_{10} =H 9: R_6 , R_8 , R_{10} =Br 10: R_6 , R_{10} =H; R_8 =Br 13: R_6 , R_{10} =H; R_8 =*i*Pr 15: R_6 , R_8 , R_{10} =Br 16: R_8 =OAc; R_6 , R_{10} =H 17: R_6 =OAc, R_8 =Br, R_{10} =H







11: R₇=Br, R₉=H **12:** R₇=H, R₉=Br **14:** R₇=H, R₉=*i*Pr **18:** R₇=H, R₉=OAc



19: R₂=Me, R₆=H **20:** R₂=Me, R₆=Br **21:** R₂=Cl, R₆=Br



22: R₂=Me 23: R₂=Cl



Fig. 1. Structure of 26 benzocycloheptaoxazines [1-26]



Fig.2. Structure of Phenothiazones [27-46]

3. 結果と考察

3.1 ベンゾシクロヘプタオキサジン類 [1-25]の古典的構造活性相関

先ず、ベンゾシクロヘプタオキサジン類 [1-25]の投与によるヒト正常細胞(HGF, HPLF, HPC) 3種とヒトガン細胞(HSC-2, HSC-3, HSC-4, HL-60)4種のCC₅₀をMTT 試薬で染色して吸光度を 測ることにより、求めた。結果をTable1に示した。ここでTS値は腫瘍選択的細胞障害活性を表 している。TS値は値が大きいほど毒性選択性が高く、正常細胞に対する毒性が無く、ガン細胞に 対する毒性が強いことを示す。従って、抗ガン効果が期待できる。逆に、TS値が小さいと正常細 胞に対して毒性が強い。ガン細胞に対する毒性が弱いので、抗ガン効果は期待できないことを表 している。

Hansch-Fujit⁴²⁾は Classical QSAR 式を提案している。QSAR 式は概略すると

薬理活性=疎水性項 + 電子的項 + 立体項

Cytotoxic activity (CC ₅₀ :µM)								
	Human tumor cell lines Normal human cells							
Compound	HSC-2	HSC-3	HSC-4	HL-60	HGF	HPC	HPLF	TS
1	486.1	449.2	>500.0	149.1	> 500.0	>500.0	499.6	1.3
2	87.9	51.5	60.2	9.6	23.2	77.2	24.4	0.8
3	11.1	13.5	18.5	15.1	63.9	87.2	95.2	5.6
4	25.3	36.8	46.7	13.7	73.6	84.2	177.6	3.7
5	>500.0	449.3	>500.0	406.2	> 500.0	>500.0	>500.0	1.1
6	264.5	202.3	328.8	42.7	349.0	369.7	379.8	1.7
7	37.2	16.3	75.6	12.7	74.8	97.4	106.9	2.6
8	267.4	165.6	319.7	231.4	451.3	397.2	414.0	1.7
9	28.6	47.0	34.8	27.4	406.9	383.6	500.0	12.5
10	90.0	90.0	142.2	34.5	278.1	310.8	176.0	2.9
11	83.3	57.2	123.2	10.7	126.7	128.9	190.4	2.2
12	71.8	53.7	91.9	36.9	71.2	69.2	156.1	1.6
13	51.3	38.3	79.4	18.0	298.1	263.1	310.9	6.2
14	109.2	70.9	158.5	27.8	173.7	273.1	232.4	2.5
15	84.0	63.1	174.1	22.4	301.1	360.0	376.7	4
16	18.9	15.2	25.6	6.6	11.3	41.1	39.3	1.8
17	57.1	43.4	84.5	11.0	356.3	144.4	179.9	4.6
18	209.6	140.8	352.5	58.3	> 500.0	>500.0	>500.0	2.6
19	91.9	65.9	134.7	19.8	157.1	230.1	186.1	2.4
20	16.4	13.3	26.0	6.1	167.7	103.1	149.9	9.1
21	25.2	21.5	47.9	13.8	124.9	358.6	449.6	11.5
22	100.0	62.0	179.8	141.0	136.4	338.8	284.4	2.1
23	72.1	60.4	236.8	20.8	346.7	366.6	418.6	3.9
24	>500.0	442.8	>500.0	326.4	> 500.0	>500.0	>500.0	1.1
25	444.5	344.0	430.5	67.6	> 500.0	>500.0	>500.0	1.6
26	>500.0	450.3	>500.0	148.2	> 500.0	>500.0	>500.0	1.3

Table 1. Cytotoxic activity of benzocycloheptaoxazines against human normal and tumor cells

ガン細胞 HSC-3 の CC₅₀ に対して,気相中と水溶液中との全エネルギーの差 $\Delta\Delta H_{f}$,気相中の HOMO エネルギー(E_{HOMO-G})および ESP 計算で求めた水溶液中の Dipole moment (μ_{ESP-W})を Classical QSAR パラメーターとして多重回帰分析を行い,次の相関式を導きだした。個々の QSAR パラメ ーターを用いて多重回帰分析を行うと、 r^{2} および F 値も小さく、従って、上記のパラメーターを 用いた。解析に用いた 5 個の化合物は任意に選んだ。

 $CC_{50} = 3168.82 + 1.31 \times \Delta\Delta H_{f} + 354.95 \times E_{HOMO-G} - 77.8 \times \mu_{ESP-W} \eqno(\ext{tl} 1)$

n = 5 (4, 6, 18, 23, 24), $r^2 = 0.998$, F = 220.51.

また,正常細胞 HGF の CC₅₀に対しては,気相中と水溶液中との全エネルギーの差 $\Delta\Delta H_f$,気相中の HOMO エネルギー(E_{HOMO-G})および気相中の Dipole moment (μ_G)を Classical QSAR パラメーターとして多重回帰分析を行い,次の相関式を導きだした。

$$\begin{split} CC_{50} &= -1066.20 + 1.46 \times \Delta \Delta H_f - 121.12 \times E_{HOMO-G} + 110.53 \times \mu_G \qquad (\ensuremath{\vec{\pi}}\ensuremath{\,2}\ensuremath{\,$$

Compound	d ΔΔH _f	HOMO (eV)) LUMO (eV)			Dipole moment (in Debye units)				
No.	(kJ/mol)	in gas phase	in water	in gas phase	in water	μ_{G}	$\mu_{ESP\text{-}G}$	μ_{W}	μ_{ESP-W}		
1	24.51	-7.61	-7.83	-0.81	-1.06	1.26	2.65	1.52	2.96		
2	21.96	-7.95	-8.09	-1.31	-1.47	1.63	1.99	1.72	2.28		
3	21.58	-8.08	-8.16	-1.50	-1.62	2.24	3.19	2.20	3.35		
4	26.65	-8.72	-8.85	-0.94	-1.18	0.56	1.04	0.45	0.97		
6	24.68	-7.99	-8.20	-0.84	-1.07	1.08	2.33	0.90	2.22		
7	24.38	-8.16	-8.34	-1.04	-1.24	0.67	1.07	0.25	0.88		
8	23.14	-8.34	-8.47	-1.23	-1.37	1.68	1.90	1.03	1.33		
9	23.13	-8.46	-8.56	-1.38	-1.48	1.83	2.31	1.23	1.81		
10	23.98	-8.18	-8.33	-1.03	-1.19	1.31	1.56	0.77	1.25		
11	24.12	-8.19	-8.35	-1.08	-1.23	0.64	0.67	0.23	0.66		
12	22.99	-8.18	-8.33	-1.12	-1.30	1.64	2.33	0.93	1.80		
13	24.73	-7.91	-8.17	-0.79	-1.07	1.45	2.64	1.31	2.56		
14	24.66	-7.92	-8.19	-0.81	-1.10	1.24	2.51	1.11	2.43		
15	44.23	-8.04	-8.30	-0.93	-1.20	1.93	2.97	1.84	2.94		
16	41.93	-7.99	-8.27	-0.90	-1.17	1.97	2.90	2.00	2.93		
17	42.41	-8.21	-8.42	-1.12	-1.35	2.56	3.32	2.19	3.09		
18	42.44	-8.03	-8.32	-0.96	-1.26	1.55	3.01	1.61	2.98		
19	25.00	-7.95	-8.18	-0.81	-1.07	0.77	2.04	0.61	1.96		
20	24.58	-8.12	-8.32	-1.01	-1.24	0.75	0.92	0.28	0.63		
21	23.58	-8.29	-8.40	-1.21	-1.33	1.74	2.94	1.27	2.59		
22	24.16	-8.14	-8.31	-1.00	-1.19	1.55	1.63	0.97	1.25		
23	23.46	-8.31	-8.39	-1.19	-1.28	1.39	2.54	1.02	2.32		
24	29.41	-7.52	-7.76	-1.04	-1.24	1.14	1.57	0.70	1.21		
25	28.36	-7.67	-7.85	-1.24	-1.41	2.49	3.79	1.50	2.96		
26	32.04	-7.46	-7.97	-1.00	-1.24	1.10	1.75	0.80	1.52		

Table 2. QSAR parameters of benzocycloheptoxazines derivatives.

前述したように、QSAR パラメーターとして、ΔΔH_f, HOMO および LUMO エネルギー、4種の双 極子モーメントの値を採用した。ベンゾシクロヘプタオキサジン類のΔΔH_fの値は次の順に増加し ている。 [3] (ΔΔH_f = 21.58 kJ/mol) < [2] (21.96 kJ/mol) < [12] (22.99 kJ/mol) < [9] (23.13 kJ/mol) < [8] (23.14 kJ/mol) < [23] (23.46 kJ/mol)。また、気相中の HOMO エネルギー (E_{HOMO-G}) は次の順に不 安定化している。[26] (-7.46 eV) < [24] (-7.52 eV) < [1] (-7.61 eV) < [25] (-7.67 eV) < [14] (-7.92 eV)。 更に、水溶液中の ESP/PM3 計算での双極子モーメント(μ_{ESP-W})は次の順に大きな値となる。[20] (0.63 D) < [11] (0.66 D) < [7] (0.88 D) < [4] (0.97 D)。一方、[20]の HSC-3 細胞に対する CC₅₀ 値は最 も小さく、(CC₅₀ = 13.3 μ M)、ついで [3] (13.5 μ M), [16] (15.2 μ M) and [21] (21.5 μ M)。これらの 個々の QSAR パラメーター値と CC₅₀ との相関を見つけることは出来なかった。

正常細胞 HFG に対しての Classical QSAR は HSC-3 細胞に用いたパラメーター, ΔΔH_f, E_{HOMO-G} および μ_{ESP-W} を用いても良い相関式を見出せなかった。そこで, μ_{ESP-W}の代わりに気相中の双極 子モーメントμ_Gを用いた。気相中のμ_G は次の順に大きな値となっている。[4] (0.56 D) < [11] (0.64 D) < [7] (0.67 D) < [20] (0.75 D) < [18] (0.77D) < [14] (1.24 D)。式 2 を用いて期待値と実測値を比較 すると, 化合物 [24-26] の CC₅₀ > の実測値は 500.0 μM 以上であるが, 計算からはそれぞれ, 60.1 μM, 323.1 μM, 77.4 μM と予想される。他にも期待値と実測値とが離反する化合物があり, Classical QSAR の限界を示していると考えられる。

Cytotoxic activity (CC_{50} : μ M)								
	Human tun	nor cell lines	Normal human cells					
	HS	C-3	Н	GF				
Compound	obs.	estim.	obs.	estim.				
1	449.2	269.7	500.0	184.4				
2	51.5	196.9	23.2	148.9				
3	13.5	69.4	63.9	296.4				
4	36.8	35.1	73.6	143.3				
6	202.3	193.1	349.0	194.3				
7	16.3	235.3	74.8	76.1				
8	165.6	136.2	451.3	187.4				
9	47.0	54.9	406.9	247.9				
10	90.0	199.7	278.1	132.2				
11	57.2	243.5	126.7	34.9				
12	53.7	154.5	71.2	216.0				
13	38.3	194.8	298.1	219.5				
14	70.9	200.9	173.7	206.0				
15	63.1	145.8	301.1	300.3				
16	15.2	160.6	11.3	283.5				
17	43.4	70.2	356.3	357.1				
18	140.8	140.8	500.0	301.1				
19	65.9	229.2	157.1	158.0				
20	13.3	270.8	167.7	54.6				
21	21.5	54.3	124.9	298.0				
22	62.0	215.6	136.4	134.2				
23	60.4	68.4	346.7	255.8				
24	442.8	445.7	500.0	60.1				
25	344.0	253.6	500.0	323.1				
26	450.3	443.8	500.0	77.4				

Table 3. Obsrved and estimated cytotoxic activity of benzocycloheptoxazines.

3.2. フェノチアジン類[27-46]の古典的構造活性相関

フェノチアジン類 [27-46] の電子状態と最適化構造を PM3 法で計算した。PM3 法での最適化 構造はわずかに非平面構造である。N10-S5 軸に対して二つのベンゼン環は約 165. $\pm 5^{0}$ であった。 気相中では C5a-S5-C4a-C4 の二面角は 161-173⁰ となり, C9a-N10-C10a-C1 の二面角は 161-170⁰ と なった。しかし, 化合物 [46] は非平面構造をとる。また, 水溶液中でもほぼ同じ構造であった。 気相中, 化合物 [31]の N10 位とプロピレン窒素原子の距離は 5.071Åであり, 化合物 [30]と[33] ではその距離はそれぞれ 4.434Åと 4.390Åであり, 活性の無い, 二つのメチレン基と N10 位との 距離は 3.859Åとなっている。N10 位と側鎖末端窒素原子間の距離が薬理活性に関与している。 *E. coli* K12 に対する 20 種のフェノチアジン類 [27-46] の Antibacterial activity (MIC 値) が報告さ れており, MIC と電子状態との QSAR を検討した。QSAR パラメーターとして, $\Delta\Delta H_{f}$ HOMO お よび LUMO エネルギー, 4種の双極子モーメントの値を採用した。フェノチアジン類の $\Delta\Delta H_{f}$ の 値は次の順に増加している。 [44] ($\Delta A H_{f} = 42.33$ kJ/mol) < [36] (48.33 kJ/mol) < [34] (50.38 kJ/mol) < 次の順に不安定化している。 [**30**] (-7.78 eV) < [**34**] (-7.89 eV) < [**36**] = [**37**] (-7.94 eV) < [**45**] (-7.95 eV) < [**38**] (-7.96 eV)。更に,気相中の ESP/PM3 計算では次の順に大きな値となる。[**43**] (0.65 D) < [**27**] (0.73 D) < [**35**] (0.85 D) < [**31**] (1.07 D) < [**33**] (1.40 D) < [**45**] (1.54 D)。一方,[**1**]の *E. coli* K12 に対する MIC 値は最も小さく,(MIC = 0.47 x 10⁴M),ついで [**2**] (0.73 x 10⁴M),[**3**] (0.90 x 10⁴M) and [**4**] (1.90 x 10⁴M)。これらの antibacterial activity は個々の QSAR パラメーター値は相関が見つ けることは出来なかった。

Table 4.	OSAR	parameters of phenothiazines	[27-46]	1
I doite 4.	20mm	parameters of phenomialies	27-40	1

Compound			ΔH_{f} (ir	n kJ/mol)							Dipole	moments (i	n Debye	units)
No.	MIC	M.W.	in gas	in water	$\Delta\Delta H_{\rm f}$	$\Delta\Delta H_{\rm f}/M.W.$	E _{H(g)}	E _{H(w)}	E _{L(g)}	E _{L(w)}	μ_{G}	μ_{ESP-G}	$\boldsymbol{\mu}_W$	$\mu_{ESP\text{-}W}$
27	0.47	304.84	203.12	148.23	54.89	0.18	-8.06	-8.58	-0.46	-0.75	0.73	0.48	1.11	0.66
28	0.73	290.81	217.61	159.27	58.34	0.20	-8.00	-8.57	-0.41	-0.75	1.99	1.04	3.12	2.38
29	0.90	334.86	4.75	-70.99	75.75	0.23	-7.99	-8.53	-0.44	-0.74	1.60	1.11	2.21	1.75
30	1.90	370.57	210.27	136.91	73.35	0.20	-7.78	-8.62	-0.29	-0.84	4.54	2.49	7.26	5.74
31	2.00	318.86	194.31	140.46	53.85	0.17	-8.05	-8.58	-0.45	-0.75	1.07	0.82	1.45	1.05
32	2.42	334.86	8.51	-67.23	75.75	0.23	-8.03	-8.52	-0.46	-0.75	1.88	0.89	3.10	2.16
33	2.50	385.58	237.68	147.30	90.38	0.23	-7.99	-8.62	-0.41	-0.82	1.40	0.88	2.61	2.25
34	3.00	284.42	229.85	179.46	50.38	0.18	-7.89	-8.55	-0.22	-0.62	2.05	1.32	2.96	2.26
35	3.09	284.42	221.85	167.69	54.16	0.19	-7.97	-8.58	-0.26	-0.62	0.85	0.41	1.62	1.02
36	3.10	332.89	164.19	115.86	48.33	0.15	-7.94	-8.52	-0.42	-0.77	2.20	1.19	3.26	2.39
37	3.50	328.47	55.07	-12.85	67.92	0.21	-7.94	-8.65	-0.23	-0.62	1.76	1.13	2.98	2.47
38	3.60	350.86	-174.74	-263.10	88.36	0.25	-7.96	-8.46	-0.45	-0.74	1.73	1.17	2.40	1.86
30	3.87	348.85	-26.60	-128.00	101.40	0.29	-8.83	-8.79	-1.81	-1.92	5.19	5.10	8.25	8.30
40	4.30	298.45	203.94	147.63	56.31	0.19	-8.00	-8.70	-0.25	-0.63	2.93	1.70	5.18	4.34
40	5.60	350.86	-139.16	-233.50	94.34	0.27	-8.01	-8.67	-0.48	-0.78	3.19	1.64	4.94	3.62
42	5.70	350.86	-172.06	-270.89	98.83	0.28	-7.98	-8.45	-0.46	-0.74	1.78	0.92	2.67	1.89
43	6.40	348.85	-5.04	-99.86	94.82	0.27	-8.32	-8.60	-1.91	-1.91	0.65	0.41	2.73	2.48
-13	16.00	233.72	222.70	180.37	42.33	0.18	-8.06	-8.60	-0.48	-0.74	1.98	1.24	3.47	2.82
44	22.50	366.86	-353.70	-467.70	114.00	0.31	-7.95	-8.40	-0.46	-0.74	1.54	0.62	2.57	1.71
45 46	24.30	334.86	86.37	-26.50	112.88	0.34	-8.74	-8.84	-0.57	-0.72	3.60	2.92	6.26	5.75

 $\Delta \Delta H_f$, HOMO エネルギー ($E_{H(G)}$) と気相中での双極子モーメント(μ_G) を QSAR パラメーターとした。その結果。次の相関式が得られた。

$$\begin{split} MIC &= -153.53 + 0.03 \ x \ \Delta\Delta H_f - 18.63 \ x \ E_{H(G)} + 3.30 \ x \ \mu_G \ (\ensuremath{\vec{x}}\ 3) \\ n &= 5 \ (\textbf{1},\textbf{9},\textbf{10},\textbf{17},\textbf{20}), \ r^2 &= 0.999, \ F = 7118.53 \end{split} \label{eq:masses}$$

式3を用いた MIC の予想値と実測値を Table.5 に示した。*E. coli* K12 に対する予想値は比較的良い関係を導くことが出来た。

式1から式3において QSAR パラメーターとして、疎水性項にはΔΔH_f、電子項には気相中の HOMO エネルギーと双極子モーメントを用いると、比較的良い相関式が得られた。こらは、薬理 作用の発現は双極子—双極子相互作用と化合物の電子供与性が重要であることを示唆している。

Compound	N	IIC			
No.	obs.	estim.	$\Delta\Delta H_{\rm f}$	E _{H(G)}	µ _{ESP-G}
27	0.47	0.39	54.89	-8.06	0.48
28	0.73	2.01	58.34	-8.00	1.04
29	0.90	2.98	75.75	-7.99	1.11
30	1.90	5.29	73.35	-7.78	2.49
31	2.00	1.54	53.85	-8.05	0.82
32	2.42	2.64	75.75	-8.0	0.89
33	2.50	2.85	90.38	-7.99	0.88
34	3.00	0.96	50.38	-7.89	1.32
35	3.09	-1.41	54.16	-7.97	0.41
36	3.10	1.12	48.33	-7.94	1.19
37	3.50	1.88	67.92	-7.94	1.13
38	3.60	3.48	88.36	-7.96	1.17
39	3.87	34.12	101.40	-8.83	5.10
40	4.30	4.52	56.31	-8.00	1.70
41	5.60	6.49	94.34	-8.01	1.64
42	5.70	3.28	98.83	-7.98	0.92
43	6.40	6.39	94.82	-8.32	0.41
44	16.00	2.82	42.33	-8.06	1.24
45	22.50	2.37	114.00	-7.95	0.62
46	24.30	24.30	112.88	-8.74	2.92

 Table 5. Observed and estimated MIC of phenothiazines [27-46]

4.1 ベンゾシクロヘプタオキサジン類 [1-25]と COX-2 との Protein-Ligand Docking

シクロオキシナーゼ(COX)はアラキドン酸から Prostagladin を合成する酵素である。 COXには COX-1, COX-2, COX3の3種類が存在する。COX-2は誘導型の酵素で,正常な生理的 条件下では,大部分の組織で発現量は非常に低い,炎症が発生すると,マクロファージ,繊維芽 細胞,滑膜細胞などに COX-2の遺伝子の発現が誘導される。



Fig.3 PGE2 産生までの経路



Fig.4 COX-2の活性部位

アラキドン酸が COX-2 により PGG₂, PGH₂に変換される活性部位の周辺のあるアミノ酸は 120 番目のアルギニン, 348 番目のチロシン, 349 番目のバリン, 350 番目のグルタミン, 352 番目の ロイシン, 353 番目のセリン, 381 番目のフェニルアラニン, 385 番目のチロシン, 387 番目のト リプトファン, 518 番目のフェニルアラニン, 522 番目のメチオニン, 523 番目のバリン, 530 番 目のセリンである。今回は活性部位のほぼ中心にある 53 番目のセリンを活性中心に置いて, ベン ゾシクロヘプタオキサジン類 [1-25]を 10Åの範囲で Protein-Ligand Docking Fitness を算出した。 Goldscore fitness は次のように求められ, Fitness 値の大きいほど, Docking しやすいことをあらわ している。

 $Fitness = S (hb_ext) + 1.3750 \times S (vdw_ext) + 1.0000 \times (S (vdw_int) + S (tor))$

ここで、S (hb_ext) は分子間の水素結合エネルギー、S (vdw_ext) は分子間のファンデルワール力 のエネルギーを表し、S (vdw_int) は分子内のファンデルワール力のエネルギーを表し、S (tor) ね じれによる歪エネルギーを表している。

				Cytotoxic Activity (CC_{50} : μ M)				
				Normal human cell	Human tumor cell line			
Comp. No	Fitness	S(hb_ext)	S(vdw_ext)	HGF	HSC-3			
26	65.05	0.26	47.18	> 500.0	450.3			
6	38.27	1.93	26.43	349.0	202.3			

この活性部位でのアラキドン酸の Fitness 値は 71.33 と大きな値であり、Protein-Ligand Docking が Fit していることを表している。 化合物 [1~26]の内、Fitness 値の最大値を示す化合物は [26] であり、最小値は化合物 [6]であった。また、分子間のファンデルワールカエネルギーが大きく 寄与している。しかし、CC₅₀ 値との関係は逆であり明確ではなかった。

4.2 ベンゾシクロヘプタオキサジン類 [31, 35, 36, 40, 44, 27, 28]と d(CGTAGATCTACG)₂ [**47**] との Protein-Ligand Docking

[47] を Protein Data Bank (ID: 119D) より,構造を Download し, CAshe により水素原子の付加,水分子の除去を行った。その後, PM3-MOZYME 法で構造最適化を行った。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 5' C G T A G A T C T A C G 3'5' G C A T C T A G A T G C 3' 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

クロルプロマジン類の N-10 位を [47] の各 dCMP, GMP, dAMP, dTMP の活性がよそうされる部位 に Docking させ, Fitness から活性中心部位を特定した。最も大きな値を示したのは, 5dGMP の

C-2 位であったことから,活性中心部位は 5dGMP であると考えられる。この部位を中心に 10Å の範囲で検索した。

Ligand No.	Fitness	S(hb_ext)	S(vdw_ext)	S(hb_int)	S(vdw_int)
31	55.48	0.00	47.90	0.00	-10.38
35	52.22	0.00	45.01	0.00	-9.66
36	49.60	0.00	44.12	0.00	-11.07
40	48.19	0.00	43.82	0.00	-12.06
44	49.07	0.00	35.69	0.00	0.00
27	54.71	0.00	47.53	0.00	-10.64
28	50.68	0.00	42.77	0.00	-8.28

Table 6. Goldscore fitness of chlorpromazines

最も大きな値を示した化合物は [31] であり,次に大きな値を示したのは [27] と [35] であった。 [31] の構造と [40] の構造は、側鎖末端Nに付くメチレン基の数が違っている。分子間および分 子内水素結合の値はいずれも 0.00 であり、分子間のファンデルワールスエネルギーの大きさが Fitness 値に影響を与えていることから、リガンドは分子間のファンデルワールスエネルギーをお おきくすることで、よりや薬理活性が高い化合物を設計できる事を示唆している。



クロルプロマジン [31] は螺旋構造の間に沿うように Docking している。また,環 C-2 位の塩素 原子から Pocket に入り込んでいるように見える。さらに,メチレン基が塩基対の水素結合を遮断 している。

5. 結語

薬理作用を有する化合物の Classical QSAR でもある程度の情報が得られるが、薬理作用の発現 に関しては、バイオインフォマテックスの手法を駆使する必要性が求められているので、今後そ

の方向で検討したい。

引用文献

- 1 Nozoe T: Heterocycles *30*:1263-1306 (1990).
- 2 Nozoe T, Asao T and Takahashi K: Bull Chem Soc Jpn 34: 146-150 (1961).
- 3 Shindo K, Ishikawa S and Nozoe T: Bull Chem Soc Jpn 58: 165-171 (1985).
- 4 Nozoe T, Shindo K and Ishikawa S: Chem Lett., 1593-1596 (1988)
- 5 Shindo K, Ishikawa S and Nozoe T: Bull Chem Soc Jpn 62: 1158-1166 (1989).
- 6 Kurihara T, Shindo K, Ishikawa S and Nozoe T: Bull Chem Soc Jpn 64: 2668-2676 (1991).
- 7 Nozoe T, Kitahara Y, Takase K and Sasaki M Proc Japan Acad 32: 349-352 (1954).
- 8 Nozoe T, Okai H and Someya T: Bull Chem Soc Jpn 51: 2185-2186 (1978).
- 9 Nozoe T and Someya T: Bull Chem Soc Jpn 51: 3316-3319 (1978).
- 10 Nozoe T, Okai H, Wakabayashi H and Ishikawa S: Chem Lett., 1589-1592 (1988).
- 11 Nozoe T, Someya T and Okai H:. Bull Chem Soc Jpn 52: 1156-1158 (1979).
- 12 Someya T, Okai H, Wakabayashi H and Nozoe T: Bull Chem Soc Jpn 56: 2756-2761 (1983).
- 13 Nozoe T, Okai H, Wakabayashi H and Ishikawa S: Chem Lett., 1145-1148 (1984).
- 14 Wakabayashi H, Ishikawa S, Okai H and Nozoe T: Bull Chem Soc Jpn 58: 2840-2843 (1985).
- 15 Nozoe T, Okai H, Wakabayashi H and Ishikawa S:.Bull Chem Soc Jpn 62: 2307-2314 (1989).
- 16 Nozoe T, Wakabayashi H and Ishikawa S:. Heterocycles 29: 1005-1012 (1989).
- 17 Nozoe T, Shindo K, Wakabayashi H and Ishikawa S: Heterocycles 29: 1459-1464 (1989).
- 18 Wakabayashi H, Kurihara T, Ishikawa S, Okada J and Nozoe T:.Bull Chem Soc Jpn 64: 2131-2139 (1991).
- 19 Wakabayashi H, Matsumaru S, Kurihara T, Yasumami M: Heterocycles 56: 73-80 (2002).
- 20 Wakabayashi H, Kurihara T, Shido K, Tsukada M, Yang, Paw-Wang, Yasumami M, Nozoe T: J. Chinese Chem. Soc (Taipei)., 45,391-400 (1998).
- 21 Yang Paw-Wang, Chen, Jhy-An, Wakabayashi H, Shindo K, Kurihara T, Wu, Chi-Phi, Yasumami M, Nozoe T: J. Chinese Chem Soc (Taipei)., 44, 5-7 (1997).
- 22 Wakabayashi H, Takano A, Shindo K, Yasumami M, Chen, Jhy-An, Nozoe T, Yang, Paw-Wang, Nozoe T: J. Chinese Chem Soc (Taipei)., *43*, 301-304 (1996).
- 23 Nozoe T, Shindo K, Kurihara T, Uzawa J: Chem Lett., 687-8 (1995).
- 24 Takeshita H, Yan, Yong Zhe, Kato N, Mori A, Wakabayashi H, Nozoe T: Tetrahedron Lett., 36, 5199-5202 (1995).
- 25 Nozoe T, Wakabayashi H, Shindo K, Yasumami M: Chemi Lett., 439-440 (1995).
- 26 Nozoe T, Wakabayashi H, Shindo K: Chem Lett., 27-28 (1995).
- 27 Nozoe T, Wakabayashi H, Shindo K, Kurihara T, Ishikawa S, Kageyama M: Chemistry Lett., 25-26 (1995).

- Lin, Yun Shan, Tsai, PaiFeng, Chen, Fa Chin, Wakabayashi H: Huaxue, 50, 133-140 (1992).
- 29 Wakabayashi H, Yang Paw Wang, Wu, Chi Phi, Shindo K, Ishikawa S, Nozoe T: Heterocycles, 34, 429-434 (1992).
- 30 Takagi K, Mizuno J, Joyama T, Tsuji T, Wakabayashi H, Nozoe T: Chem. Express, 7, 25-28 (1992).
- Lin, Yun Shan, Tsai, PaiFeng, Chen, Fa Ching, Wakabayashi H: Huaxue, 48, 303-308 (1990).
- 32 Wkabayashi H, Hashiba K, Yokoyama K, Hashimoto K, Kikuchi H, Nishikawa H, Kurihara T, Satoh K, Shioda S, Saito S, Kusano S, Nakashima H, Motohashi N, Sakagami H: Anticancer Res., *23*, 4747-4755 (2003).
- 33 Wakabayashi H, Yokoyama K, Hashiba K, Hashimoto K, Kikuchi H, Nishikawa H, Kurihara T, Satoh K, Shioda S, Muto S, Terakubo S, Nakashima H, Motohashi N and Sakagami H: Anticancer Res 23: 4757-4764 (2003).
- 34 Sekine T, Takahashi J, Nishishiro M, Arai A, Wakabayashi H, Kurihara T, Masaki H, Hashimoto K, Kikuchi H, Katayama T, Kanda Y, Kunii S, Motohashi N, Sakagami H: Anticancer Res., 27, 133-144 (2007).
- 35 Wakabayashi H, Nishishiro M, Arikawa S, Hashimoto K, Kikuchi H, Nishikawa H, Kurihara T, Terakubo S, Shoji Y, Nakashima H, Motohashi N, Skagami H: Anticancer Res., 25, 305-312 (2005).
- 36 Kurihara T, Mine H, Satoh Y, Wkabayashi H, Motohashi N, Sakagami H: In Vivo, 20, 391-396 (2006).
- 37 Kurihara T, Noguchi M, Noguchi T, Wkabayashi H, Motohashi N, Sakagami H: In Vivo, 20, 385-390 (2006).
- 38 Kurihara T, Satoh R, Miyagawa T, Wakabayashi H, Motohashi N, Sakagami H: In Vivo, 21, 715-720 (2007).
- 39 Chakrabarty AN, Molnar J, Dastidar SG and Motohashi N (eds.) (1998) Non Antibiotics. NISCOM, New Delhi, India, pp. 100-113.
- 40 Motohashi N (eds.) (2008) Bioactive Heterocycles VI, Springer, pp. 253-279.
- 41 GOLD 2006 CCDC Software Ltd.
- 42 Hansch C, Fujita T: J. Am. Chem. Soc., 86, 1616 (1964).
- 43 Ohkura K, Hori H: Bioorg Med Chem, 7, 309-314 (1998).

(Received Feb, 20, 2009)